

二番茶期のチャもち病に対する 銅水和剤を用いた防除技術

チャもち病は新芽の発生後、新葉に水疱状の大きな白色の病斑を形成し、収量と品質を低下させ、特に中山間地の二番茶で問題となっています（図1）。特に、有機栽培や減農薬栽培などでは化学合成農薬の使用が制限されるため、本病に登録のある非化学合成農薬の銅水和剤を使用しますが、現行の散布時期（萌芽期から0.5葉期）では効果が不安定です。そこで、福岡県農林業総合試験場八女分場では、二番茶期のチャもち病に対し効果の高い散布時期と各種銅水和剤の防除効果を明らかにしましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 二番茶萌芽前（一番茶摘採20日後）に銅水和剤を散布することで、二番茶期のチャもち病の発生を抑制できます（図2）。
2. 一般的に使用されている銅水和剤は、二番茶萌芽前の1回散布でいずれもチャもち病に対し高い防除効果を示します（表1）。



図1 チャもち病の病斑

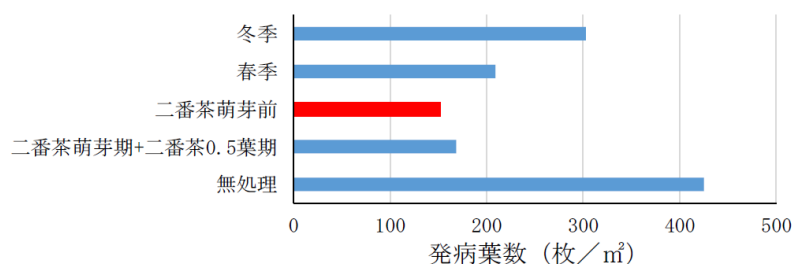


図2 二番茶期のチャもち病に対する銅水和剤の散布時期別防除効果

表1 チャもち病に対する各種銅水和剤の二番茶萌芽前散布による防除効果

供試薬剤	濃度 (倍)	発病葉数 (枚/㎡)
コサイド3000	1,000	17.8
Zボルドー水和剤	400	18.7
ドイツボルドーA	500	18.3
ムッシュボルドーDF	1,000	34.4
無処理		1340.7

☆ 活用面での留意点

1. チャもち病の防除適期が短いことから、散布時期を逸さないように注意します。また、この病原菌は萌芽前の芽に付着しているため、薬液が十分かかるように散布します。
2. 詳しいことは、福岡県農林業総合試験場八女分場（TEL: 0943-42-0292）まで、お問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）